

異常な行動が記録されている事例(その3)(平成19年4月18日～4月27日に第一報報告のあったもの)

No.	識別番号	性別	年代	一日投与量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要
1	B-07001354	女	10歳未満	120mg		異常行動	回復	インフルエンザA型治療のため、リン酸オセルタミビル投与開始。 服用開始2日目、酸素マスクをはずして、点滴のラインとカチャカチャぶつけていた。声を掛けると我に返った。ベッドの上に立ち上がった。声をかけても反応無し。手をベッドにぶつける。 服用開始から6日目、異常行動回復。
2	B-07001355	男	10歳代	150mg	プラノプロフェン 臭化水素酸デキストロメ ルファン ドンペリドン フマル酸クレマスチン	異常行動 幻覚	回復 回復	数日前から咽頭痛あり、朝から38.3℃の発熱を訴え受診。B型インフルエンザ陽性のため、リン酸オセルタミビル処方。本剤2回服用4時間後に就寝。翌日未明、両親の寝室にばたばたと入ってきて、「死ぬとこだった」とおびえた表情をしたので、両親は寝かせつけた。その朝、患児を観察すると、擦り傷、両下肢の付着物、両足底の汚れあり。事情をきくと、何かに追いかけるような怖い夢を見ていたような恐ろしい思いをした後、自分が窓枠にぶら下がり、両足をコンクリート壁の突き出し部分に乗せているのに気づき、よじ登って部屋に入ったとのこと。部屋を確認すると、窓が開いている、足跡がついている等の形跡あり。
3	B-07001356	男	10歳代	150mg		異常行動	回復	インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル投与開始。服用3日目、服用後に患者が異常に本剤を欲しがり、母親の首を絞めるなどの異常行動あり。翌日、異常行動回復。
4	B-07001361	女	10歳代	150mg		異常行動	軽快	インフルエンザB型治療のため、リン酸オセルタミビル処方。服用2回目で突然立ち上がり、廊下に飛び出す。わけのわからない事を叫び、暴れる(約3分間1回きり)。家族がおさえて制した。 服用開始5日目、服用終了。
5	B-07001523	男性	10歳代	150 mg	アセトアミノフェン 塩酸アンブロキシソール 塩酸シプロヘパタジン 塩酸ホミノベン	異常行動	回復	数日前より症状あり、一般用の感冒剤を服用。 翌日、発疹あり受診。インフルエンザA型陽性のため、リン酸オセルタミビル処方。1回目服用1時間後、両上肢拳上、訳のわからないことを言いながら、こたつの周囲を10回ほど回った。その後紙製のふたをにぎりしめていた。このため救急車で来院。怒りっぽく荒々しい言動であった。CT異常なし。眠気あり。 その翌日午後、意識清明となる。
6	B-07001666	男性	30歳代	150 mg	アモキシシリン	異常行動	回復	インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル処方。服用3日目、目がうつろ、家族の言葉を聞いていない等の異常行動が出現。服用4日目、突然包丁を持ち出したり、道路の車の前に飛び出したりした。服用5日目、本剤服用中止。中止1日後、意識清明。
7	B-07001668	男性	10歳代	150 mg	アセトアミノフェン	幻覚 異常行動	回復 回復	発熱39.1℃。検査にてインフルエンザB型陽性のため、リン酸オセルタミビル5日分処方。同日昼、夜と本剤2回服用。 翌日未明、就寝していた患者が急に起き上がり、部屋をかけ回る、たんすを開ける、友達がいると言い、友達の名を大声で叫ぶなどの行動をとる。家族が気づきおさえる。数分で落ち着いた。39.9℃と高熱。同日朝、意識清明であるが、異常行動時の記憶はなし。本剤服用中止。その後、異常なし。

異常な行動が記録されている事例(その3)(平成19年4月18日~4月27日に第一報報告のあったもの)

No.	識別番号	性別	年代	一日投与量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要
8	B-07001670	女性	10歳代	75 mg	アセトアミノフェン	大発作痙攣	回復	39.2°Cの発熱を主訴に初診。インフルエンザB型の診断にて、リン酸オセルタミビル処方。同日夜、風呂場に行き、浴槽で頭を打ちつける異常行動を発現。出血(少量)あり。失禁あり。意識清明まで5、6分。その後、強直発作10秒認める。発熱は一度37°C台に戻るが、再び38°C台に上昇。その後、就寝。深夜、トイレに行ったときに脱力し、意識消失。約1分後に回復したが、その後10分程度ぼーっとした状態であった。その後、通常に戻り就寝。徐々に平熱となった。
9	B-07002051	男性	10歳未満	120 mg	クエン酸モサブリド ヒベンズ酸チベピジン 塩酸シプロヘプタジン 塩酸アンブロキシール アセトアミノフェン	異常行動	軽快	インフルエンザA型の診断にて、リン酸オセルタミビル処方。同日昼前、服用し、4時間後、ベッド上で暴れ、奇声をあげる。母が抑制し、10分程度で暴れなくなった。同日夕方、再診し、診察上言動やや不安定だが指示には従う。名前、年齢は答えられるが、「どこにきているか」の問いかけには「わからない」と答えるといった軽度の失見当識を認めた。神経学的異常所見を認めず(meningeal signs(-))。同日夜間、最高40°Cまで発熱するもせん妄、異常行動認めず、入眠した。翌朝、体温37°C台まで解熱。易疲労訴えあるが、その他、異常は認めなかったとのこと。
10	B-07002055	男性	10歳代	75 mg		異常行動	回復	シーズン前にインフルエンザ予防接種2回施行。 気分が悪いと訴えあり。体温38.4°C。インフルエンザ検査陰性であったが、インフルエンザの可能性高いからと、リン酸オセルタミビル処方。服用3~4時間後の早朝、「友達がベランダから落ちた」と発言。表情もおかしかった。問いかけに答えられず。そのまま睡眠した。同日夕方、ウーと声が聞こえたので、急いで行ったら、自分の頭を殴っていた。その後「人を殺した」と発言。本剤中止。暫くして意識清明となる。 翌日未明、気分が悪いと訴え、リビングを駆けずり回り、「死にたい」と連呼。救急車要請。救急隊到着時、ぼーっとしている感じではあったが、名前は言えた。入院後、補液。その間異常行動なし。意識清明。顔には自分でひっかいた、ひっかき傷目立つ。唇もかんでいるようで、出血あり。本剤内服せず様子見とした。翌日、解熱し、異常行動もみられず退院。 2週間の間隔をあけて測定したが、インフルエンザに対する抗体価の上昇なし。
11	B-07002056	男性	10歳未満	75 mg		異常行動	回復	38.2°Cの発熱。 翌日、リン酸オセルタミビル処方。同日夜、本剤服用。翌深夜(服用6時間後)、起きだし、2階の階段を下りようとし、その際母親を跳ね飛ばし、母親が階段から落ち、骨折。異常行動発現。その後、父親に抱きつき、眠った。 服用開始3日目、熱も下がり、普通に帰った。異常行動回復。
12	B-07002193	女性	10歳代	75 mg		異常行動	軽快	インフルエンザB型治療のため、リン酸オセルタミビル服用。服用2時間半後、目の焦点が合わない、叫び声をあげる、壁に頭を打ちつけるという異常行動あり。すぐに再来院。再来院時は意識清明、採血結果も異常なし。異常行動時、本人はかすかに記憶あるも、頭を打ち続けることを止めることができず怖かったとのこと。1回内服のみで中止し、その後、異常行動を認めていない。

異常な行動が記録されている事例(その3)(平成19年4月18日~4月27日に第一報報告のあったもの)

No.	識別番号	性別	年代	一日投与量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要
13	B-07002249	女性	10歳未 満	60 mg	テオフィリン 塩酸プロカテロール 塩酸プロムヘキシ ン ツロプテロール 桜皮エキス	失見当識	回復	インフルエンザA型陽性にて、リン酸オセルタミビル処方。服用後、少しぼーっとした感じがあるが、返事あり。同日夜より、寝ないで動きまわる。落ち着かず、キョロキョロするが呼んでも返事をせず、どこをみているのか焦点がさだまらない。ぼーっとしており全くしゃべらない。聞こえているのかもわからない状態になった。服用2日目、体温36.9℃と解熱するも上記症状がつつきよくなる。痙攣なし。顔色良好。呼吸正常。多動傾向あり。麻痺なし。神経反射異常なし。瞳孔左右同大。対光反射あり。呼びかけてもだまったままで、キョロキョロする。周りに誰がいるかわからない状態であった。脳炎又は本剤副作用を考慮して入院。EEG、MRI、髄液検査：異常なし。テオフィリン血中濃度がやや高値であった。入院6日後、言葉、行動とも正常になり退院した。